

特集 地域のこれからを考える

～地域おこし協力隊と行政の声～

全国的に人口減少や高齢化が進む中、都市部から地方に人材を呼び込み、地域力の維持・強化を図る仕組みとして「地域おこし協力隊制度」があります。滝川市では現在、6人の協力隊員が地域で活動しています。今回はそのうち4人の協力隊員と行政担当者にインタビューを行い、制度運用上の課題、そしてこれからの地域づくりのヒントを探ります。

地域おこし協力隊とは？



地域の未来を応援するために都市部から地方に移住して地域の活性化に取り組むもので、マンパワーを活かして観光や地場製品の魅力を伝えたり、農林水産業への従事など、様々な地域協力活動を展開しながら、その地域への定住・定着を期待するというものです。協力隊員の任期は最長3年間です。

“受け入れ側”が語る現状の課題と思い

協力隊の受け入れについて、行政側が感じる課題や現状を担当者にお聞きしました。

課題

- 生活面での不安や
悩みを改善してい
く必要がある。
- 地域のコミュニティ
に溶け込んでもら
うことが大切。
- イメージと実際に活動する際の
ギャップを減らす必要がある。
(本市では定住率が約30%)

思い

- 「おためし地域おこし協力隊」制度の活用
により着任後のギャップを減らしたい。
- 住まい探しや生活にかかわる事業者の紹介な
ど、少しでも生活面での不安を取り除きたい。

*** 新たに着任された協力隊員をご紹介します！ ***



いとう あきこ
伊藤 明子 さん

文化・芸術活動コーディネーター
着任時期：2025年4月～

- 協力隊に応募したきっかけ
2001年から18年間、滝川市民ミュージカル等に
演出家として携わりました。文化センター閉鎖後
滝川での活動は途切れましたが、市ホール建設の
話を聞いてぜひまた関わりたいと思い応募しました。
- 現在の活動
國學院短大の授業にオブザーバーとして参加し
ています。また、市民と一緒に文化を語るだれも
が集まれる場「みんくるうむ」を毎月開催してい
ます。
- 今後やってみたい取り組み
これからは市内高校の演劇部や、演劇集団の森
組さん等とも交流をしていきたいと思っています。
また、過去に滝川で行ったミュージカル「シレニ
アのうた」の復活や、演劇・歌・踊りなどの野外
フェスティバルをやりたいと思っています。



ところ ゆうた
所 祐太 さん

観光推進員
着任時期：2025年3月～

詳しくはこちら→
観光課Instagram



- 協力隊に応募したきっかけ
高校時代から実演販売などのPR活動が好きで、い
つか仕事にできたらいいなと思っていました。何か新
しいことをしたいという思いがあり、30歳の節目で前
職を辞め、協力隊に応募しました。
- 現在の活動
SNSでのPR活動や、スタンプラリーのデザイン
や企画など、市の各イベントのお手伝いをしています。
挑戦したいことを尊重してくれ、全面的にフォローし
ていただけるので他の協力隊員と何かできることがな
いか模索しながらとても楽しく活動しています。
- 今後やってみたい取り組み
SNSのフォロワー1万人を目指し、引き続き活発
な情報発信と、イベントの企画もしてみたいと思いま
す。滝川に住み続け、「滝川といえば」ですぐに思い
浮かんでくるような人になりたいと思います。

現役協力隊員の現場の声



いせ りょうすけ
伊勢 良介 さん

着任時期 2023年4月～
(3年目)

詳しくはこちら



滝川クラフトビール工房
Instagram



あかり
燈珈琲店
Instagram

・現在、どのような活動に取り組んでいますか？

クラフトビール工房でビールの醸造、^{あかり}燈珈琲店でクラフトビール販売、イベント等でPR・出店をしています。

・現在の活動でのやりがいや、今後力を入れたい活動などがありますか？

クラフトビールの製造を含め、燈珈琲店の店舗運営を通じて地域の人と関わることで、イベントなどに誘っていただく機会が増えたことなど、地元の人々とのつながりや、地域に溶け込んでいる実感があり、やりがいを感じています。

協力隊の企画でクラフトビールの新商品の販売を開始したので、今後は積極的にPRしていきたいと思っています。

・移住をしてきて、滝川市の印象はどうですか？

移住をして2年が経ちましたが、地域資源はあるのに、情報発信が弱く、市の制度や取り組み、どこに力を入れているまちなのかが、市民にあまり伝わっていないと感じます。情報を自ら探しに行かなくても、自然と届くような仕組みづくりが必要だと思っています。

・着任にあたって困ったことはありますか？

移住をしてすぐ、保育所の入所など、主に子育てに関することで苦労しました。協力隊員の中には、家族連れで移住する方も多いと思いますので、子育てに関する支援制度を改善し、広く情報発信することで、移住や任期後の定住につながると思います。また、公園の整備が充実すれば、特に子育て世帯にとってより住みやすいまちになると思います。

・移住をしてきて、滝川市の印象はどうですか？

農業を始めるために移住してきた当初、地域の皆さんが温かく歓迎してくれ、驚いたのを覚えています。地域の交流も活発で、人間関係もとても良く、自分もこの中に溶け込んでいきたいという思いを持ちました。地域の農家仲間の皆さんとは函館に旅行したこともあります。

・活動を振り返って、制度面や自身の課題として見つかったことはありますか？

自分の課題は、任期終了後に農家として暮らしていくための営農計画を立て、実行していくことです。ただ、その計画を数字で表すのが難しく、扱う金額も大きいため苦労しています。1年目は作業を覚えるだけで満足してしまい、先を見据えた準備ができなかったことを反省しています。

制度への不満は特にありません。農大研修に参加させていただいたり、免許取得の支援を受けられたりと大変助かっています。

・農業分野で地域おこし協力隊をやってみたい方へ向けて一言お願いします。

個人事業主なので、何か課題が見えてきたときに、自分で責任を持って乗り越える力が必要ですが、市農政課や農協、地域の農家仲間など、相談や頼れる人がたくさんいるので安心です。大変なことはたくさんあると思いますが、何事にも強い気持ちを持って取り組んでほしいなと思います。



すぎした れい
杉下 怜 さん

着任時期 2023年4月～
(3年目)

詳しくはこちら→

杉下さんInstagram



求められる支援

- コミュニケーションの確立。
- プッシュ方式による制度や取り組みの情報提供。
- 子育て支援政策の充実と情報発信力の強化。

伺ったお話から、まちに新しい風を吹き込む熱意ある協力隊員の姿や、それを支える行政の課題が見えてきました。今回いただいた貴重な感想やご意見を基に、今後も市民の皆様と一緒に、政策議論や提案に活かしてまいります。

取材にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

